

Phagri

2021年

4・5月

NO.225

ワカバ堂薬局

JR 守山駅東口グランドメゾン守山1F

TEL 077-583-8474

<http://www.phagri.com/>

◆◆4・5月は痰湿の病に要注意◆◆

1) 自然の厳しさと恵み

4月11日はペットの日だったそうです。

近年ペットと人との距離がうんと近くなっていると思います。同じ空間に住み、ヒトと似たものを食べるようになると、ヒトと同じ病気が増えました。

先日、飼い主と一緒に外出から帰ると、真っ先にヒーターのスイッチを押すイヌがいて聞きました。ではペットと野生動物で、違う点は何でしょう？

一つには季節病の有る無しがあります。ヒトやペットは文明の利器で温度調節したり、食べ物を調達したりしますが、それでも気象病にかかります。野生動物は身一つで自然に随順して生活しています。

自然は厳しさとセットで季節ごとに折々の恵みを提供してくれているといつも思うのです。ヒトの先祖や野生動物は折々にそれを摂っていましたが、今はその多くが漢方薬の中に名残をとどめています。

2) 五十肩、関節の腫れ・痛み

なぜか毎年4～5月になるとリウマチが悪化する方があります。五十肩や膝関節の腫れ・痛みのご相談も散見される時期です。多くは**痰邪**、**湿邪**が関係していて、それらの邪気を除く薬草が有効です。

今開花しているウラシマソウやマムシグサ、テッセンなどを使います。単独では毒性があり使いません。今芽吹いているウドも使います。何れも湿り気が多い土地で育つ性質です。

これらの湿気に強い性質の植物を頂いて治療できるのは不思議な気がします。

2) 神経の疲れからくるメマイ、目の使い過ぎによる充血、眩しさ、視力減退など

サザエやアサリの美味しい季節ですが、アワビやタカラガイの貝殻には自律神経の過亢進を和らげる効果があり漢方食品として上市されています。

3) 中年以降の健忘



健忘は老化現象ですが、高じると精神不安から不眠、動悸、頻尿などに発展することがあります。

こうした脳の老化には脳内に蓄積するタンパク質の老廃物が関係していると考えられています。

漢方では、こうした不要な老廃物の蓄積物を「**痰**」と考え、「**化痰薬**」と呼ばれるグループの薬草が用いられます。ゴールドンウィークの頃はヒメハギのかわいい花が見られますが、ヒメハギの仲間には「化痰安神薬」として、中年以降の健忘に効果が認められているものがあります。

4) ニキビ、おできなどの皮膚化膿症

皮膚化膿症の膿も「**痰**」と考えられていて、膿を取り除くのに化痰薬が使われます。その際、釘のように根をまっすぐに地中に下ろす地丁植物として、タンポポ、スミレ、イトヒメハギなどが製剤化されて使われています。今、花が見られます。



(虫の一分)